

ピア・サポートによる育児相談室開設の試み
－産科施設内における実践から－

高橋司寿子¹⁾ 益田 早苗¹⁾

1) 青森県立保健大学

Key Words : ①育児相談 ②ピア ③サポートシステム

I. はじめに

近年、育児支援のシステムとして、地域における育児サークルやグループなど、ピアによる母親のサポートが効果をあげている。しかし、育児期のサポートに比べ、妊娠・出産期からの取り組みは少ないのが現状である。そこで、母親同士が気軽に話ができるように、育児ストレス群より選定したピア相談員による育児相談室を産科施設内に開設し、利用した妊産婦の相談内容・評価、および相談員の感想などを調査しその効果を検討した。

II. 目的

産科施設内に育児相談室を開設することで、母親同士が気軽に相談ができる場を提供し、その効果を検討することを目的とした。

III. 研究方法

1. 研究方法

地域の中核病院である青森県青森市A病院と連携、産科施設内に育児相談室を実際に開設し、介入研究の手法で実施した。

2. 研究対象

平成17年10月から平成18年3月までの6ヶ月間に育児相談室を利用した妊産婦13名。

IV. 結果

A病院の産科外来内に、妊娠中・育児中の母親同士のピア・サポートを目的とした「相談室ノア」を設置した。

相談室の名称には、利用者が親しみを感じ、より多くの市民が広く気軽に利用することを通して妊娠生活・育児生活、家族・仕事の不安や悩みを可能な限り解消していただきたいという意味や願いがこめられた。相談室の案内は、チラシと病院のホームページで行った。

相談員は、前年度の面接調査の対象者（育児ストレス群）から選定し、妊産婦が医療専門職には直接、率直かつ自由に聞くことができないような疑問や質問など気軽に相談できることをねらいとした。また、相談・助言を通して相談に訪れた女性が問題解決をはかること、不安の軽減、仲間作りを実施上の目標においた。

相談室は平成17年10月から平成18年3月までの6ヶ月間、毎週木曜日の13:00から16:00までの時間帯で行われ、期間内の開催回数は12回、利用者は13人であった。

相談室の相談内容、評価は、表1と表2のとおりである。

表1 相談室の相談内容

相談者	主な内容
初産・妊娠中の7名 妊娠・産後の3名 経産・妊娠中の2名 経産・産後の1名	出産に対する期待と不安、保育園など出産後の生活のこと、新生児の抱き方やおむつ交換の方法、友人問題、出産準備品分娩室や入院中での問題 看護師の妊婦への対応・態度のこと 育児不安、日常生活全般のこと

表2 相談室の評価

項目	内容
相談室利用の主な理由 相談室の雰囲気など	「引越してきて間もなく知り合いが少ない」「子育てや日常生活の具体的な情報が欲しい」「友人に誘われて」「利用しやすかった」「相談員の対応がとてもよかった」「また利用したい」「もといろいろな人に知ってもらって利用してもらえると、いろいろな話がきけてよい」

相談員においては、自分自身の育児の振り返ること、ほかの母親を支援すること、により達成感や充実感を感じていた。

V. 考察

利用者の相談内容および評価には、育児に関することが中心にとりあげられているものの、友人のことや日常生活についてなど、医師や看護職など専門職にはあまり相談しないと思われる内容もあった点が特徴的であった。そのことから、利用者は母親同士で気軽に話をすることができ、さらに日常的な不安や悩みを表出して仲間同士で解決するという効果があった。今回の取り組みは「気軽な相談」が目的であるが、その延長線上には、再評価カウンセリングやMCG（Mother and Child Group）

と同様の支援効果も期待される。

近年、人と人との対面によるコミュニケーションが苦手という母親が多い。意識調査によると、子育てを通じた近隣とのつきあいが無い母親に比べ、つきあいがある母親は、子育てを楽しんでいる比率が高くなっており、人との関わりの持ち方によって子育てに対する考え方が変わることが示されている²⁾。そのため、このような相談室によって子育てを通じたつきあいの機会の場を提供することが、育児支援のサポートシステムとして効果的といえる。

今回は、同じ母親同士による育児相談室を産科外来内に開設したことにより、健診や受診の際に気軽に立ち寄れる利点に着目することができた。実際に相談室を利用した妊産婦さんからは肯定的な評価があることから、今

後は案内や時間帯などの検討により利用者数の増加をはかる対策が必要とされる。(本研究は平成15年～17年度文部科学研究「児童虐待の未然防止並びに再発予防を目的とした親へのサポートシステムの構築」の一部である。研究分担者：新道幸恵、浅田豊、大西香代子)

VI. 文献

1. 益田早苗：児童虐待の未然防止並びに再発予防を目的とした親へのサポートシステムの構築、平成15～17年度文部科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書、2006.
2. 小長井春雄：「子育てピア」と専門職のための支援者養成プログラムを実施して、助産雑誌58巻7号、医学書院、2004.